

男女の壁を壊すために

田原中学校3年 加藤志帆

私は社会科の授業で、男女がお互いを尊重し合い、職場や学校、家庭や地域など社会のあらゆる分野で性別にかかわらず個性と能力を発揮する「男女共同参画」という言葉を教わりました。

でも、私は、この世の中は男女不平等なことであふれていると思っています。意識して探してみると、自分の想像以上に男女の壁が見つかりました。まず、私に身近な学校生活の中では、グループやチーム分けをするときに、男女できれいに分かれることです。別に、最初からそうしようと思ってやっているわけではありません。自然にそうなります。それについて、私は、男女で組んだり、一緒に何かをしたりすることが照れくさく、恥ずかしいからかなと思っています。

また、学校生活以外でも、男女の壁を感じるがあります。それは、私の家庭生活の中でのことです。ある日、私のお父さんが、お母さんに家事を頼まれていたのに忘れてやっていないということがありました。それをお母さんが注意すると、お父さんは、「俺は毎日仕事をしているんだ。そっちの仕事は家事だろ。」と怒ったように言いました。お母さんは、お父さんがやっていなかったから注意した、当たり前のことをしてただけなのに、怒られるなんてあんまりです。私は、お母さんがかわいそうでたまりませんでした。そんなお父さんとお母さんの姿を見て、男女の壁、もっと詳しく言うなら「仕事は全て男が、家事は全て女が」という風潮を感じないわけにはいきませんでした。私も女だから、そんな風潮が気に入るわけはありません。もし、私が大人になったとき、そんな風潮が残っていたらいやだなと心の底から思いました。

さて、今は、男女共同参画が中学校の社会科や家庭科の教科書に載る時代です。教科書に載るということは、この世の中の多くの人がそうあるべきだと考えているからだと思えます。でも、私のような普通の家庭のお父さんでも、「そっちの仕事は家事だろ」という言葉が出てくるくらいです。もちろん、お父さんだって、心の底からそう思っているわけではなく、注意されてかっとなり、とっさに言ってしまったんだらうなどは思えます。それでも、間違いなくそういう意識はあったということです。この意識こそ、男女の壁を作る最大の原因だと私は思っています。

男女の壁を作るこの意識は、心の問題であるだけに簡単には解決できません。でも、あきらめているわけではありません。今は昔に比べれば、はるかに女の人が活躍できる社会です。それは、男女の壁が低くなってきた証拠だと私は思っています。男女の壁を壊すために、昔の人がしてきてくれたことを私たちが受け継ぎ、男女共同参画が当たり前といわれるような社会にしていきたいと思えます。